

Q8 死亡牛についても検査を行っている理由を教えてください。

BSE感染牛は、潜伏期間(平均4～5年)を経て中枢神経系異常、歩行異常などを呈した後に死亡します。従って、死亡牛は、BSEを疑う神経症状等を示す牛などとともに、BSEのリスクが最も高い牛(高リスク牛)のひとつと考えられ、これらの牛を対象に検査をすることによって、BSE感染牛をより効率よく検出することができると考えられています。なお、EUでは高リスク牛群における BSE の存在は、通常の健康牛のそれより約10～15 倍高いとの報告がなされています(参考)。

我が国では、平成 16 年4月1日から 24 ヶ月齢以上の全ての死亡牛について BSE 検査が行われており、この検査結果は、BSEの汚染状況を把握するとともに、そのまん延防止対策や新たな発生の予防対策に用いられます。これまでのところ、688,839頭(平成 22年 10月 31日時点)の死亡牛等を検査し、陽性頭数は 14頭報告されています。

また、死亡牛については、その全てが処分され、決して食用や飼料用等に回ることはありません。

(参考)欧州委員会“Opinion on Requirements for Statistically Authoritative BSE/TSE Surveys, Adopted by the Scientific Steering Committee at its meeting of 29–30 November 2001”